

レベル別(ラダー)看護実践能力の指標

| ラダー | レベルⅠ | レベルⅡ | レベルⅢ | レベルⅣ | レベルⅤ-1 | レベルⅤ-2 | |
|------------------------------|---------------------------|---|---|---|--|--|---|
| 目標経験年数 | 新人 | 卒後概ね2年 | 卒後概ね3~4年 | 卒後概ね5年 | ジェネラリスト | フェイクワイド、エキスパート | |
| 到達目標 | 看護実践に必要な基本的能力を習得する | ①根拠に基づいた看護を実践する ②後輩と共に学習する | ①個性性を重視した看護を実践する ②看護実践者として、後輩に指導的役割を果たせる | ①先輩の学習を支援する ②チームリーダーとしての役割がとれる | 専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究への取り組みができる | 施設主体の医療・看護の質向上のために指導的役割を果たせる | |
| I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できること | アセスメント | 1.データベースを活用して、健康状態をアセスメントする。診察記録上の情報の活用 ①多様な情報源の活用 ②身体・心理・社会面・スピリチュアルからの情報収集 ③患者のニーズの理解 ④看護基礎教育で得たアセスメントの視点の知識と観察に基づいた看護の必要性の判断 | 17.自ら情報を得て対象のニーズをアセスメントする。患者・家族及び多職種の情報収集 ①多様な情報源の活用 ②身体・心理・社会面・スピリチュアルからの情報収集 ③患者ニーズの理解 ④患者の状態に合わせた観察 ⑤フィジカルアセスメントの実施 ⑥顕在化している課題把握 ⑦自ら対応可能な判断 | 33.対象の個性を捉えたニーズをアセスメントする ①全体像の理解 ②家族役割の理解 ③患者・家族の思いの理解 ④家族役割の理解と支援 ⑤対象の多角的情報からアセスメントした総合的な看護判断 ⑥看護計画や看護ケアに患者・家族の要望を反映 ⑦個性性を踏まえた情報収集 ⑧正確なフィジカルアセスメント ⑨優先度の高いニーズの把握 ⑩状態に合わせた観察内容・関連の理解 ⑪必要時の観察項目の追加 ⑫異常値出現時の対応 ⑬潜在化している課題把握 ⑭患者・家族の生活の理解 | 49.ニードとニードの関連を明らかにする ①患者・家族の思いを理解した看護実践 ②患者・家族の理解に関する後輩指導 ③疾患の予後、退院後の生活等の予測的な状況判断のもと情報収集 ④家族での役割、仕事、病識等を意図的焦点化したうえで確認 ⑤情報収集を統合してニーズを把握 ⑥フィジカルアセスメントを行い患者の状況の原因を予測、意図的観察 ⑦人生の最終段階に向けた患者・家族へのケア | 65.多様なニーズを把握し、患者の価値観を反映した判断ができる ①複眼的な視点から迅速に状況を判断 ②複雑な状況や多様なニーズを把握し、必要な介入の判断 ③疾患の予後と治療による影響や退院後の生活予測 ④患者をとりまく多様な人々がもつ情報の重要性の理解 ⑤患者・家族の価値観をアセスメントし多様なニーズの把握 | |
| | 援助的コミュニケーション | 2.基本的な技法を用いて、患者・家族と適切な援助的コミュニケーションを図る ①看護職の身だしなみや対応が与える影響を理解した適切なマナー・接遇 ②不適切な接遇に伴うトラブルのリスクの理解 ③患者個人としての尊重 ④思いやりと共感的態度 ⑤患者—看護師関係の理解 | 18.患者・家族の反応を受け止め、援助的関係を形成する ①患者・家族を尊重した対応 ②ケアリングの理解 | 34.患者・家族とのコミュニケーションを促進し、援助的関係を構築する ①患者—看護師関係に基づく意図的コミュニケーション | 50.患者・家族の立場や状況を見極め、安定した援助的関係を維持する ①安定した良好な人間関係の構築 ②患者・家族の意思尊重と、チーム内の調整 | 66.患者・家族、多職種との関係の構築について後輩の役割モデルとなる ①患者・家族との援助的関係構築の後輩支援 | |
| | 治療的コミュニケーション | ①看護者としての治療的コミュニケーションの必要性と理解 ②看護者としてのカウンセリング能力の必要性の理解 | ①看護者としてのカウンセリングの実践 | ①治療的コミュニケーションの実践と患者の反応に基づく評価 | ①高度・複雑な看護を必要とする患者への治療的コミュニケーションの実践と患者の反応に基づく評価 | ①高度・複雑な看護を必要とする患者へのカウンセリングの実践 | |
| | 安全を守る技術 | 3.医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づいて行動する ①マニュアルの理解とマニュアルに基づいた行動 ②看護行為に伴う危険性の理解 ③手順に沿った誤薬防止 ④患者誤認防止の実施 ⑤転倒転落防止策の実施 ⑥薬剤・放射線暴露防止策の実施 ⑦基本的な医療安全対策を考えた実施 ⑧事故防止におけるコミュニケーションの重要性の理解 ⑨暴力対策の理解と事案発生時の報告・相談 | 19.医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルを基に、危険を予測し、看護を実践する ①患者に予測される事故防止策についての看護計画への組み入れ | 35-1)医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づき、主体的に行動する 35-2)部署内の医療安全・感染防止に関する問題提起する ①看護行為に伴う危険性を多角的に予測 ②原理原則に基づき、患者個別の状況に応じた安全な方法の選択 ③患者に実施された事故防止策の評価 ④看護行為に伴う危険性とマニュアル遵守に ついて後輩指導 | 51.所属部署内の医療安全・院内感染防止に関する問題を改善するために、主体的に対策を提案し、継続して実践できるように働きかける ①高度・複雑な看護を要する患者に応じた安全確保対策の判断と実施 | 67.医療事故防止対策や感染予防対策について他部署に働きかける ①安全の保証 ②事故防止対策のチェック機能 ③原因分析 ④再発防止 | 81.専門的知識をもって患者教育やコンサルテーションを行うことができ、その看護において実践者のモデルとなることができる。また、看護の展開について同僚に伝え看護の質向上に寄与できる |
| | 感染防止策 | ①スタンダードプリコーションの実施 ②感染経路に応じた院内感染予防策の理解 ③助言のもと感染経路別予防策実施 ④防護用具の選択 ⑤無菌操作の実施 ⑥規程に沿った医療廃棄物の取り扱い ⑦針刺し事故防止行動と針刺し事故後の対応 ⑧洗浄、消毒、滅菌の適切な選択 | ①標準予防策の確実な実施 ②感染経路に応じた院内感染予防策の実施 | ①患者に実施された感染防止策の評価 ②医療廃棄物の取り扱いに対する問題提起と後輩指導 ③感染防止・廃棄物の処理 | ①患者に応じた感染防止策に対する後輩指導 | ①感染防止策に対する後輩指導 | |
| | エビデンスに基づいた実践 | 4.看護基準・手順に沿った看護を実践する ①最新の情報を活用した根拠に基づく看護実践 ②看護基準・手順の内容の理解と不確実な点の確認 | 20.根拠に基づいた看護を実践する ①看護基準・手順を理解した実践 ②エビデンスに基づく看護実践 ③看護基準・手順のエビデンスから見えた問題提起 | 36.患者の個性性を重視した看護を実践する ①最新の情報を活用した根拠に基づく看護実践 ②看護基準・手順の定期的見直し | 52.状況に統合し、適確な判断のもと看護を実践する ①最新の研究成果の情報 ②研究成果の批判的思考を用いた看護実践 ③看護基準・手順に沿った後輩指導 | 68.状況に応じて医療チームに働きかけ、看護を実践する ①新しいガイドライン等によりマニュアル等の見直しの構築、修正 ②実践課題を見いだしたチームでの解決 | |
| | 状況にあわせた看護実践 | ①基準・手順に則ったケアの説明と実践 ②安全・安楽な看護の方法の思考と実践 ③受け持ち患者の看護計画の立案・実施 ④急変時対応の場面において、流れを把握、指示の把握メモ、バイタルサイン確認等、できることを実施 ⑤救命救急処置技術 | ①標準看護計画を追加変更しケアの実施 ②重症患者・医療依存度の高い患者のケア ③必要な情報を得て状況に合わせた援助 ④一般的な内容を網羅した指導 ⑤起こりうる危険性を予測した観察 ⑥急変時指示されたケアを責任を持って実施 | ①患者の状況に応じた的確な看護判断と個別的な看護ケアの提供 ②患者の生活習慣・価値観・希望等を考慮した指導 ③優先順位を正しく判断したケア ④起こりうる危険性を予測した観察、予防的対応 ⑤社会的資源の活用 ⑥多職種との情報交換 ⑦個性性を捉えた看護を後輩に支援する ⑧急変時、家族への配慮 | ①熟練した技術の提供による患者満足度の高いケアの実践 ②患者の状況に応じて創意工夫した看護ケアの実践 ③高度・複雑な看護を必要とする患者に対する的確な判断と適切な看護技術 ④個々の患者に応じた安全・安楽な看護実践 ⑤適確な判断と適切な看護技術提供に対する後輩指導 ⑥幅広い選択肢からの提案やケア ⑦患者の反応に応じた段階的指導 ⑧急変時原因・今後の展開を予測した対応と今後の準備 | ①重症、急変、複雑な状況に合わせた看護実践 ②患者の複雑なニーズに対応するためにあらゆる知見を用い、QOLの向上、生活の可能性を広げるケア ③急変時複雑な病態の患者においても原因、今後の展開を予測した対応等と今後の準備 | |
| | 看護記録 | ①看護記録記載基準の理解と基準に沿った記録 ②患者の症状・反応、及び看護実践内容を正確に記録 ③看護記録における法的役割の理解に基づいた記録 | ①患者・家族の反応等の記録 | ①情報開示を考慮した看護記録の作成 ②第三者が見て理解できる記録について、後輩に指導 | 看護記録の監査 | 看護記録の質的評価 | |
| | II できる高い倫理観に基いた、質の高い看護が提供 | 患者の尊厳 5.多様な価値観・信条や生活習慣をもつ人を尊重した行動がとれる ①人間の生命・尊厳の尊重 ②患者の多様な価値観を尊重する重要性の理解 患者の権利 ①自病院で掲げられている患者の権利の理解 ②プライバシーに配慮した看護実践 看護職の倫理 ①職業倫理、「看護者の倫理綱領」の理解 ②看護者の責任の理解 ③専門職業人としての使命と心構え ④職場内の規律の理解 ⑤看護職者としての健康管理 | 21.倫理上のジレンマを表現する ①患者個々の多様な価値観の理解と尊重 ①患者の権利擁護の理解 ①専門職業人としての自覚と行動 ②アサーティブコミュニケーション | 37.医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する ①医療倫理・看護倫理上の問題提起 ①患者の権利に関連した問題提起 ①倫理に基づいた自発的な行動 | 53.倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる ①倫理的視点に基づく看護実践行動 ②倫理原則に基づいた問題解決 ①患者の擁護者、代弁者としての行動 ①倫理的行動について後輩のモデル的役割 ②組織人としての行動 | 69.倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする ①倫理的視点での後輩指導 ①患者の人権擁護に関する後輩指導 ①関連する職種と連携し、倫理カンファレンスの開催 ②倫理カンファレンス開催後の記録 | |
| | 看護職の説明責任 | 6-1)看護ケアについて患者・家族にわかりやすい説明を行い同意を得る 6-2)患者・家族の思い・考え・希望を理解する ①対象に応じた適切な情報提供 ②患者・家族が納得できる看護実践の説明。および反応の把握 | 22.患者・家族の思い・考え・希望をケアにいかす ①対象に応じた情報内容の整理と情報提供方法の工夫 | 38.患者・家族にわかりやすい説明と必要な情報提供を行い、意志決定の支援をする ①患者・家族が十分納得できる説明の工夫、および反応の把握 ①患者・家族に提供する看護ケアの判断・選択に必要な情報の提供 ②患者・家族の意思の尊重と、意思決定に必要な情報の提供 ③患者・家族の価値観・生き方・意向の引き出し ④訴えの客観的判断 ⑤患者・家族の疑問に対する適切な対応 ⑥意向の異なる現状を多職種に代弁 ⑦患者の意思決定した内容の支援 ⑧患者・家族がそれぞれに持つ複数の思い・気持ち・価値観に寄り添う ⑨検査や治療に関する説明の同時時の記録 | 54.高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を行い、意思決定の支援をする ①患者・家族が意思決定した内容の支援調整、ゆらぎの共有 ②患者・家族の気持ちを引き出す ③意思決定のプロセスの促進、選択の共有 ④患者・家族が自ら決定できるように積極的関わり ⑤患者・家族の意思決定支援にかかわるカンファレンスの開催・調整 ⑥カンファレンス開催後の記録 ⑦複雑な意思決定場面に関与し寄り添う ⑧意思決定に関わる揺らぎに寄り添う | 70.患者の意思決定支援において後輩の役割モデルとなる ①高度・複雑な看護を必要とする患者への意思決定に必要な情報の説明 ①自ら考え意思決定できるような積極的に踏み込んだ関わり ②意図的に医療チームを動かして意思決定プロセスを支援 ③日々変化することを念頭に置き、多角的な視点から尊重し寄り添う ④複雑な意思決定場面でも尊厳を尊重した意思決定のためのリリースを積極的に活用し調整 ⑤患者・家族への意思決定支援への振り返り | 82.自らの専門知識を活かし倫理的視点に基づく看護実践を指導・教育する |

| | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|--|--|---|--|---|
| Ⅲ 他職種と協働し、看護の役割を發揮すること | 看護チーム内の役割遂行 7.看護チームの一員として自分の役割を理解する ①看護単位の特殊性、入院患者の代表的疾患・治療の理解 ②看護単位の日常業務の流れ、各勤務の業務内容の理解 ③担当する複数患者の看護7者の優先度の決定 ④業務の時間内遂行 ⑤担当する患者の計画をチームメンバーへの報告 ⑥予定外事態が発生した場合のチームメンバーへの報告 ⑦チームメンバーとしての役割遂行 | 23.看護チーム内での役割を遂行する ①メンバーの立場や人間性を尊重した対応 ②看護チーム内での情報共有、看護方針の確認 ③看護の優先度の判断 ④勤務時間内の業務遂行 | 40.主体的に看護チームの一員としての役割を遂行する ①日々のリーダー業務の遂行 ②チームメンバーの業務調整 ③医師・看護師長への的確な報告・連絡、および指示・方針のメンバーへの伝達 ④カンファレンスの運営 | 55.看護チームのリーダーとして行動する ①看護体制におけるリーダーの役割の理解と行動 ②看護単位の問題の理解と、解決に向けたリーダーシップ行動 ③看護単位の目標、活動計画立案及び評価の参画 ④看護管理上の問題の調整を上司とともに実施 ⑤後輩指導 | 71.看護チームの役割モデルとして行動する ①看護チーム内での直接的指導・支援 ②看護チーム内で役割を効果的に發揮できるように調整 ③上司に対してリーダーシップ行動 ④自律的判断のもと多職種への働きかけ | 93.チーム医療においてリーダーシップを發揮しロールモデルとなる | |
| | 多職種との協働 8.多職種と協働する ①多職種・関連部門の役割業務および連携の理解 ②チーム医療の構成員として自己と他のメンバーの価値観や役割の理解 ③チーム医療の一員として自己の役割の遂行 ④必要な情報を同僚や他職種に提供 ⑤カンファレンスの参加と、情報提供及び共有 ⑥関係者の多様な価値観の理解 | 24.多職種と情報交換する ①多職種協働の必要性に気づく ②医師と治療方針等を確認、患者の訴え等の情報提供 ③多職種と情報交換 ④カンファレンスに参加し積極的発言 | 41.多職種と連携・相談する ①関連部門、多職種の職務の理解と、医療チームにおける問題の提起 ②メンバーからの情報に対する事実確認 ③多職種連携の推進 ④積極的に必要な職種と関わり、協力依頼 ⑤カンファレンスの開催 | 56.多職種と協働する ①他部門、多職種との協働、多職種間のファンリテート ②組織横断チームとの協働 ③起こりうる課題を予測してスペシャリストの関わり方の提案、調整 ④急変時に対応しながら全体を見た指示・指導 | 67.1)地域の関連機関や支援者と関係性を築き、協働する 57-2)地域のネットワークを活用し、主体的に退院支援ができる ①自治体の退院支援システムを活用した部署の退院支援の問題提起 ②部署の退院支援の後輩 | 72.多職種と協働・調整する ①保健医療福祉サービス資源の活用と継続性の保証 ②継続看護、在宅看護、地域保健・学校保健 ③全体を俯瞰し、周囲への指示・支援 ④多職種の役割が効果的に發揮できるように働き出す ⑤チームの目標共有、連携促進 ⑥カンファレンスの中心となって問題解決に導く ⑦多職種と院内外の複雑な調整 | 73.患者・家族のニーズを充足するために保健医療福祉サービスの継続性が保証できるように調整する ①診療圏内の医療施設との連携 ②地域連携システムの活用・多職種との協働 ③地域ネットワーク作り・社会資源・情報発信 |
| | 地域との協働 9.地域において、自施設の果たす役割と位置づけを理解する ①継続看護の理解 ②看護が継続するための地域における自施設の役割 ③自施設の退院支援システムの理解 ④地域医療に関わる医療政策の理解 | 25.退院支援システムのプロセスを理解する ①自施設の退院調整システムを活用した担当患者の退院調整の判断と相談 | 41-1)病院機能・対象患者に開かれたあるケアネットワーク・支援システムの全体像を理解する 41-2)院内ネットワークを活用し、退院支援ができる ①退院後の生活を見通した他職種とのコーディネート ②担当患者の適切な退院支援の実施 ③地域の支援ネットワークを活用した継続看護の理解 | 57-1)地域の関連機関や支援者と関係性を築き、協働する 57-2)地域のネットワークを活用し、主体的に退院支援ができる ①自治体の退院支援システムを活用した部署の退院支援の問題提起 ②部署の退院支援の後輩 | 74.チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組める ①看護の質評価 ②患者・家族等に生じた問題に迅速に対応 ③患者満足度調査結果に基づいた看護ケアの改善 ④他者の仕事の成果のモニター ⑤質問・要求・苦情に適切にフォロー | 75.社会の医療の動向を踏まえ、自施設の病院が担う看護や経済的課題を見つけ、解決の方策を考える ①疾病構造の変遷や課題 ②医療政策の動向と疾病対策 ③保健医療福祉サービスについての経済的・政策的課題を含めた成り立ち | 76.自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる ①病院組織の一員として、自部署の課題の評価と見直し ②病院の組織体系を理解し、よりよい医療の提供に向けた各部門との連絡・調整 ③労働災害防止 ④健康管理・福利厚生 |
| | 看護ケアの質 10.看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する 改善点の理解 ①ケアに対する患者・家族の反応から | 26.看護ケアの質向上のための改善点に気づく ①患者・家族の反応から看護ケアの改善 | 42.看護ケアの質の評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する ①退院時アンケート、患者満足度調査の結果の把握と自部署の課題の理解 ②看護ケアの質評価の指標についての理解 | 58.チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高めるための行動をとる ①看護ケアの質評価の指標の理解、および上司とともに自部署の課題の改善 ②自己の仕事の成果のモニター ③質問・要求・苦情に適切にフォロー | 77.経営改善、業務改善に取り組む ①診療報酬・介護保険の理解とそれに基づく自部署の改善への取り組み ②自施設の経営方針や経営状況の理解、所属部署内で改善 ③設備投資の採算 ④病床管理 ⑤経営改善に向けた後輩指導 | 78.自施設の危機管理対策について他部署に働きかける ①病院全体の医療安全システムに関する問題提起 | 79.自己のキャリアアーカーを確認し、役割モデルを果たす ①他職種との協働関係成立についての振り返り ②感情をコントロールしたしなやかな対応 |

| | | | | | |
|--|---|--|--|--|---|
| Ⅳ 病院経営に参画でき、看護マネジメントができること | 医療の動向 11.NHOが担う医療を理解する ①保健医療福祉提供システムの理解 | 27.NHOが担う医療に関心を持つ ①医療保健福祉提供システムの理解 | 43.社会の医療の変化に目を向け、NHOが担う医療に関心を持つ ①人口動態や疾病構造の動向の理解 | 59.社会の医療の動向を踏まえ、病棟内の看護やケアに関連した課題を見つけ、解決する ①保健医療福祉の動向の理解と役割提起 ②医療に関する医療の理解 | 75.社会の医療の動向を踏まえ、自施設の病院が担う看護や経済的課題を見つけ、解決の方策を考える ①疾病構造の変遷や課題 ②医療政策の動向と疾病対策 ③保健医療福祉サービスについての経済的・政策的課題を含めた成り立ち |
| | NHOが担う医療 ①NHOが担う医療の理解 ②自施設が担う医療の理解 ③担当する医療分野の概要・看護についての理解と助言を受けて実施 | ①NHOが担う医療における自施設の役割の理解 ②自部署が担当する医療分野の概要の理解、看護の実施 | ①自部署が担当する医療分野の看護の特殊性を後輩に指導 ②異なる医療分野についての主体的な学習 ③自部署の看護に誇りを持つ | ①担当する医療分野における熟練した看護の実践 ②担当する医療分野における看護実践を後輩に指導 ③異なる医療分野での看護実践 ④自施設の看護に誇りを持つ | ①所属するサービス提供組織のありようを改革 ②地域における自施設の看護の役割(社会参加)の提案 ③異なる医療分野においても役割モデルを果たす ④NHOが担う看護に誇りを持つ |
| | 組織 12.自施設の運営目標と看護部の位置づけを理解する ①病院の組織体型的における看護部の位置づけの理解 ②看護部における自己の位置づけの理解 ③就業規則の理解 ④タイムマネジメント ⑤自己の健康管理 | 28.組織の目標を理解し、目標達成に向けて行動する ①病院職員の一員として、組織の目標と部署の目標の理解 ②病院の組織体系の理解 | 44.自部署の目標達成のため役割遂行できる ①病院組織の一員として、組織の目標達成に向けた行動 ②患者へよりよい医療の提供に向けた各部門の位置づけや役割の理解と連携 ③勤務計画表と就業規則の関係の理解 | 60.リーダーの役割を理解し、主体的に行動する ①病院職員の一員として、組織の目標を達成するための自部署の課題や実践の提案 | 76.自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる ①病院組織の一員として、自部署の課題の評価と見直し ②病院の組織体系を理解し、よりよい医療の提供に向けた各部門との連絡・調整 ③労働災害防止 ④健康管理・福利厚生 |
| | 目標管理行動 ①国立病院機構、病院及び看護部の理念と運営目標の認識 ②自己の目標に向かい努力 | ①部署の目標と、自己の目標の関連 ②自己の目標達成への行動 | ①病院および看護部の理念に基づいた所属部署の目標達成のため自己の役割の遂行、およびリーダーシップの發揮 | ①病院の年度計画を理解した行動 ②委員会活動の積極的参加 ③目標達成に向けて障害の克服 ④委員会等での決定事項の部署での実践と指導 | ①課題に対しPDCAサイクルを廻す ②危機的状況の対応 ③問題回避のための行動 |
| | 経営参画 13.コスト意識を持つ ①コスト意識をもった衛生材料の適正使用 ②実践した行為について診療報酬に基づいた手続きの実施 | 29.医療用消耗品・医療用機器を管理する ①医療用消耗品等の管理(定数の確認・補充) | 45.診療報酬と看護実践の関連について理解する ①診療報酬、介護保険の理解と看護上の改善点の提案 ②診療報酬の動向への関心と自部署の看護 ③医療機器管理 | 61.業務改善に取り組む ①診療報酬に照らし、看護上の改善点の提案 ②経営改善に関する改善案の提案 ③診療報酬、介護保険の理解と看護上の改善点の提案 | 77.経営改善、業務改善に取り組む ①診療報酬・介護保険の理解とそれに基づく自部署の改善への取り組み ②自施設の経営方針や経営状況の理解、所属部署内で改善 ③設備投資の採算 ④病床管理 ⑤経営改善に向けた後輩指導 |
| | 医療機器・看護用品管理 ①規程に基づいた医療機器、看護用品の取扱い | ①医療機器、看護用品の正しい取り扱いと点検 | ①所属部署内の医療機器・看護用品の取り扱いと看護の効率を上げる視点を持った保管・整備・点検方法の提案 | ①医療機器・看護用品等の点検方法についての後輩指導 | ①安全性・効率性の観点を持った所属部署の必要物品の見直し |
| | 医薬品管理 ①薬剤の請求・受領の基準・手順の理解と実践 ②薬剤の特徴に応じた管理の理解と実施 ③血液製剤の請求・手順の理解と実施 ④血液製剤の特徴に応じた管理と実施 | ①医薬品の正しい取り扱いができる | ①所属部署内の薬剤・血液製剤の請求・受領・保管に関する問題提起 ②所属部署内の薬剤・血液製剤に関する後輩指導 | ①所属部署内の薬剤管理体制上の問題提起と解決策の提案 ②法令に基づいた薬剤の取扱いについての後輩指導 | ①安全な薬剤管理のための見直し |
| | 医療安全管理体制 14.自施設の危機管理対策を理解し、助言を受けて行動する ①医療安全管理規程の理解 ②医療安全管理規程に基づいた確認行動 ③インシデント・アクシデントの理解 ④インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 ⑤状況の簡潔な言語化 | 30.自施設の危機管理対策について、院内各規程に基づき行動する ①所属部署内の安全対策の実施 | 46.自施設の危機管理対策について、所属部署内の問題を提起する ①所属部署内の安全に関する事実の追求と問題分析 ②安全対策の立案と実施 ③所属部署内の安全管理について後輩指導 ④マニュアル改訂の提案 | 62.所属部署内の危機管理対策に関する問題を改善するために、主体的に改善策を提案し、継続して実践できるように働きかける ①所属部署内の安全管理に関する問題提起し、改善案を提案する ②安全管理について後輩指導 ③自己防止に向けたチームリーダーとしての役割 | 78.自施設の危機管理対策について他部署に働きかける ①病院全体の医療安全システムに関する問題提起 |
| | 院内感染予防管理 ①院内感染予防管理規程の理解 | ①院内感染予防管理規程に基づいた行動 | ①院内感染予防管理規則に基づく率先した行動と、実践をとおして、自部署の課題の気づき | ①所属部署内の院内感染予防管理に関する問題提起 ②院内感染予防管理について後輩指導 | ①病院全体の院内感染予防管理システムについて問題提起 |
| | 個人情報保護 ①守秘義務の遵守 ②医療情報に関する規程の理解 ③医療情報に関する規程遵守の行動・個人情報記載された書類類の管理等 ④医療スタッフへの適切な情報提供 | ①医療情報の正しい取扱い | ①医療情報の取り扱いについての問題提起 | ①個人情報提供に関する問題提起と解決 | ①情報提供、個人情報保護に関する後輩指導 |
| 災害対策 ①院内のマニュアルの理解 ②災害発生時の自己の役割の理解 ③被災時の状況、経過等の理解 | ①院内マニュアルの理解とマニュアルに基づいた行動 ②災害発生時における治療と応急処置の理解 | ①所属部署内の災害対策に関する問題を提起 ②災害発生時の院内対応の理解 | ①所属部署内の災害対策に関する問題の提起と改善策の提案 ②災害発生時の院内対応の実践 | ①病院全体の災害対策に関する問題提起 ②被災地の避難所等の医療救護活動の理解 | |

| | | | | | |
|------------------------|---|---|---|--|---|
| Ⅴ 後輩と共に看護職を創造する | 自己理解 15.日常の看護実践の中で、支援を受けながら看護行為の振り返りを行う ①対人関係における自己の傾向の理解 ②ストレスへの気づき | 31.日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける ①対人関係における相手あるいは他者の反応の受け止めと自己分析 | 47.経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める ①対人関係における自己の傾向の理解と、感情のコントロール ②ストレスマネジメント | 63.自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する ①看護チーム内における自己の傾向の理解に基づく安定した対応 ②対人関係における自己理解について後輩指導 | 79.自己のキャリアアーカーを確認し、役割モデルを果たす ①他職種との協働関係成立についての振り返り ②感情をコントロールしたしなやかな対応 |
| | リフレクション ①自己の看護について表現 ②自己の言動を客観視した表現 ③看護行為の振り返りと看護観 | ①自信を持って自己表現 ②根拠に基づいた看護についての振り返り | ①自信を持って新たなことにチャレンジ ②病院・看護部の理念の展開について振り返り ③受け持ち患者の看護の振り返り | ①自己で意思決定し責任ある行動 ②後輩指導、リーダーシップに関する振り返り ③家族・自己・仕事の3領域を調整させた将来的なキャリア計画の立案 | ①自己の判断に自信を持って責任ある行動 ②振り返りについての振り返り ③自己のキャリアアーカーの確認 |
| | スタッフ支援 32-1)後輩の心身の変化を気にかける 32-2)自己の課題を見出し文献学習 ①新採用者の気持ちの理解、心身配慮 | 48-1)後輩の学習を支援する 48-2)自己の看護実践の意味づけを行う ①新人の役割モデル ②後輩の精神的支援 ③アサーションコミュニケーション ④成人学習者の理解 | 48-1)後輩の学習を支援する 48-2)自己の看護実践の意味づけを行う ①新人の役割モデル ②後輩の精神的支援 ③アサーションコミュニケーション ④成人学習者の理解 | 64-1)後輩の指導者としての役割を果たす 64-2)看護研究に取り組む ①後輩に応じた適切な指導 ②後輩の看護実践モデル ③後輩指導の意義 ④看護職員の教育計画の理解 | 80-1)チームで学習できる環境を整える 80-2)看護研究に取り組む ①チームで学習する環境づくり |
| | 学生支援 16.看護実践における問題意識を持ち、解決のため必要な文献検索を行う ①看護実践における問題意識 | ①専門職業人としての自己課題の認識 | ①学生の気持ちの理解と配慮 ②自己の課題解決 | ①学生個々に応じた適切な指導 | ①学生指導・実習目標達成支援 ②見学者の案内 |

| | | | | | |
|------------------|--|---|--------------------------------------|--|---|
| Ⅵ 看護を創造する | 研究的態度 ①文献検索方法の理解と、必要な文献の収集 ②学習の効果を活用した看護実践 | ①研究的視点をもとに、看護実践における課題解決行動 ②状況理解のための文献検索 | ①看護の質向上に向けた研究結果の活用 ②看護実践を文献等を用いて意味づけ | ①研究的態度 ②研究テーマの取り組み ③倫理的配慮に留意した研究 ④問題・状況把握 ⑤状況理解のための情報収集し必要なリソースを活用 ⑥問題の細分化 | ①自己の研究テーマの取り組み ②看護の探求についての後輩指導 ③学会発表 ④状況や問題の本質に迫る情報収集 ⑤複雑な概念の適用 ⑥状況や問題の関係性の分析 |
|------------------|--|---|--------------------------------------|--|---|